

第 28 回青梅市公共交通協議会議事要旨

日 時 平成 30 年 12 月 28 日（金）午後 1 時 30 分から午後 2 時 30 分まで

会 場 青梅市役所議会棟大会議室

出席委員 14 名（うち代理 1 名）

高橋会長、轟座長、伊藤(英)委員、橋本委員、和田委員(代理)、中村委員、新井委員、秋山委員、中西委員、福泉委員、松本委員、伊藤(良)委員、尾澤委員、佐々木委員

傍聴者数 2 名

配付資料 資料 1 基本計画推進状況について
青梅市公共交通ガイド変更案

議 事

1 開会

2 報告事項

(1) 市広報誌による公共交通の利用促進について

(2) 観光における MM について

○ 事務局

(資料 1 について説明。)

○ 座長

観光 MM について、降車時の IC タッチ数が格段に伸びているという点について、事業者さんの方から、現場の状況などがお分かりになれば、お聞かせいただきたいと思います。

○ 委員

梅 76 系統の IC タッチ数のデータということで、上成木のバス停で降車した際のタッチ数であり、すべてのお客様のデータではございませんが、データを見ますと、このグラフのとおり 8 月、10 月にかなり伸びているというのがわかります。現金で乗車されていた方が IC カードに移行されたといったことも考えられるのですが、この伸び方を見ますと、チラシの効果というのも一定数あるのではないかという見方が出来ます。

現在のところ、10 月までのデータを提供させていただいておりますが、今後も引き続きデータを取り、事務局へ提供させていただきます。

○ 座長

このような状況ということで、大変うれしいご報告かと思えます。

報告事項 2 点に関して、何かご質問、ご意見いかがでしょうか。

○ 事務局

地元の成木地区の公共交通検討委員会にもご協力をいただいておりますので、一定の効果が見られたという結果を伝えまして、引き続き地域と連携しながら市内観光における MM を実施していきたいと考えております。

○ 座長

これだけの効果があるとやりがいもありますので、どんどん仕掛けていただきたいと思えます。

関連して、効果を測るという意味でも、訪問者へのアンケートやヒアリング等で、声を聴いていただいて、次回、効果的にMMができるように改善していただければと思います。

3 協議事項

(1) 学校教育におけるMMについて

○ 事務局

(資料1 (1) 学校教育におけるMMについてについて説明。)

○ 座長

それでは、学校教育におけるMMについてです。まだ2カ月ありますので、アイデア的なものも検討いただけるかと思っておりますので、その辺りを含めてご意見をいただきたいと思っておりますがいかがでしょうか。

乗降の仕方、マナーについてはやっていただくとして、P6④交通環境学習の目的の2つ目のところで、具体的にどんなことがあるかというのを考えていたのですが、やはり乗って楽しいということが結構響いてきて、それをご家族にも伝えてもらって、「バスに乗ろうよ」と言ってもらえるのが良いかなと思っております。

楽しさというものについて、何かアイデアがあればお聞かせいただければと思います。

○ 事務局

あまり時間が取れない中で、この辺りの方は普段、車で移動していますので、バスに乗って親しんでいただくということを中心に考えていますが、校長先生が、来年度もう少し深くやってはどうですかとのことでして、4年生を対象に時間を取っていただくこともできるこのことなので、4年生の方に交通の課題を考えていただいて、それを地域に発信していく、ラッピングバスのようなことが出来れば良いとおっしゃっていたので、そういったことでモチベーションを上げていただいて、楽しんでいただけるようなことも考えていきたいと思っております。

○ 座長

今回は間に合わないのですが、次回というお話ですけれども、P7の内容を見ていると、ちょっと硬いと感じますので、2月に出来るのであれば、着ぐるみですとか、少し楽しいことをご検討いただければと思います。

○ 事務局

時間が少しありますので、バス事業者さんとも相談しまして、今いただいた意見を踏まえて楽しい取り組みになるように検討して参ります。

○ 委員

可能ならば、宿題のようなものを出して、家に持ち帰って、公共交通について話してくるというようなことがあると良いかなと思っております。親御さんにもこういったことを学校でやっているのだなと認識していただいて、子供が乗りたいといえれば一緒に利用しようかという話になるかと思っておりますので、そういったことも含めて効果を広めるということをご検討いただければと思います。

楽しいという点では、先日別のところでの話ですと、バスに乗ると何が楽しいかという点、視線が高いということで、普段見えないところが見えるのが楽しい、というような話を小学

生がしていました。乗車体験のところで、普段家で乗っている車と何が違うかというような話があると良いのかなと思います。

ちょっとした工夫の範囲で結構ですので、ご検討いただけるとありがたいです。

○ 座長

今、具体的なアイデアをいただきました。視線の話もそうですし、車と違うという点では友達とみんなで、大勢で乗れるとかもあると思いますし、楽しさというものを情報提供できればと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

では、ご協力をいただく関係者の方々、引き続きよろしく申し上げます。

(2) 事業所におけるMMについて

○ 事務局

(資料1 (2) 事業所におけるMMについて説明。)

○ 座長

それでは、本件についてご質問、ご意見ありますでしょうか。

ヒアリングをかけた所の感触で結構なのですが、この地区でマイカー通勤から公共交通への転換を積極的に推進しようという事業者さんがおられるかどうか気になっております。もし感触がわかれば教えてください。

○ 事務局

お話をお伺いした会社では、もともと三ツ原工業団地循環のバス路線がございますので、そちらを利用するように前から取り組んでいると伺いました。

ただ、各企業に勤めている方は比較的市内の人が多いと聞きまして、市内の移動に関しては車が便利だという状況がありますので、普段車で移動するのが当たり前となっている従業員の方々に対して、いかにバスを含めた公共交通での通勤を促していけるかというところが今後の取り組みの課題、というお話をさせていただきました。

○ 座長

事業所さん、経営者にとって一番気になるのは安全、事故ということではないかと思えます。そういった事故などの管理、リスク管理から、公共交通へと、経営者側が前向きになってもらうと両輪で行くかなと思っております。アンケートも行うということですから、その辺を強調していただければなと思います。

○ 委員

三ツ原工業団地周辺の通勤時間帯の渋滞状況などは、どのような感じでしょうか。

○ 事務局

ヒアリングの段階でそこまでの確認はできておりませんが、ちょうど圏央道の北側に面して、広い直線道路があったりしますので、車が動かなくなるような状況はないのかなと思いますが、今後のアンケート等の中で情報収集していきたいと考えております。

○ 委員

MMをやる場合に、従業員の方のモチベーションとして何かないと変わっていくのは難しいと思いますので、渋滞や健康が切り口になるのかもしれないので、そんなに細かい話では

ないので、普段の渋滞状況のデータですとかを含めて聞いていただけると良いと思います。

アンケート項目の中に「通勤時の交通全般に関する問題の有無」というのがありますが、どこを切り口にしたら効果が高いのか、どこか問題があるか把握して、解決につながる形でMMをやってほしいと思いますし、公共交通利用者を増やす、併せて事業所側にもメリットがあるという話ができればと思います。

○ 事務局

P12 の宇治市の例ですが、結果のところ、乗用車の交通量が減って通勤時間帯の渋滞長が短くなったという数字が出ています。取り組みをしていただくことで、車よりも電車・バスで行った方が早く行けるといったことも従業員のメリットになると思いますので、そういったところも比較できるように情報収集していきたいと思います。

○ 座長

今の点は非常に重要だと思います。アンケートをした後に次のMMにつながる場所で何を売りにするかというのは、非常にポイントだと思います。さらに、アンケートの中で改善点が見えてきたら、事業者さん等にも協力いただいて改善をして結び付けていきたい、改善いることを示して、利用者のインセンティブを上げて、利用につながればと思いますので、そういったことも検討いただければと思います。

○ 会長

三ツ原工業会の会員は77社で全体の8割とありますけれども、何名くらい勤めていて、現在バスを利用している方はどれぐらいいらっしゃるのでしょうか。

○ 事務局

先日のヒアリングの時点では、従業員数については即答できないとのことでしたので、今後、数字の方は情報提供いただこうかと思っていますところ。

○ 会長

社員数、利用されている方というのはわからないということですね。そういう数字がわかると、実際の取り組みが面白くなるのではないかという話です。よろしくお願いします。

○ 事務局

ここまでご意見をいただきまして、利用者の利便性につながる着眼点として、皆さまに視点としてこういう見方もあるというところの提供と、バス路線の維持というような自分たちのメリットだけではなくて、公共的などところにも資するものなどということなど、いろいろなことをMMとして出していきたいと考えております。

○ 座長

そのほか、ご質問、ご意見いかがでしょうか。

この件もせつかくやるからには効果を上げたいので、効果の把握も含めて、これも先ほどの学校MMと同じように、アイデアがあれば今後で構わないですからお寄せいただいて、いろいろな仕掛けで、成功事例にしたいなと思っています。場合によっては、このMMに合わせて、キャンペーンをやるというのものもあるかもしれないと思っています。

それでは、(2)は以上といたします。

(3) 公共交通ガイドの変更について

○ 事務局

(資料1 (3) 公共交通ガイドの変更説明。)

○ 座長

大きな改定ということで、この際いろいろなことができると思いますから、遠慮なくアドバイスいただきたいですが、質問も含めて、いかがでしょうか。

○ 委員

P11 にシルバーパスの掲載をしていただきました。市としても路線バスの利用促進は取り組んでいるところでございまして、シルバーパスもぜひとも使っていただきたいということがあります。市民に一番身近な市役所の問い合わせ先も追加していただけたら、紙面の関係もあるとは思いますが、より市民に丁寧かなと思います。

○ 座長

P1 の一番下にある京王自動車さんのところに Google play・App Store とあるのですが、こういうのが今時は結構重要かと思います。今、京王自動車だけがあるのですが、バス会社のHPへ、スマートフォンでの検索に結びつけばと思っております。先ほどの観光の話もありますけど、観光になってくると完全に外から来る人はそういう情報で動いていくと思います。そのあたりの可能性をご検討いただけないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○ 事務局

バスの時刻表ですとか、リアルタイムの運行状況等が検索すればわかりますので、そういう情報がどこにあるかというのを掲載できるように、紙面を工夫したいと思います。

○ 座長

各時刻表といったところも今時の技術を使えば、QRコードですとかスマートフォンを使えば、いろいろなことができますから、どんどん工夫していただければと思います。

関連して、このガイドもスマートフォン版を作ることは検討していますでしょうか。

○ 事務局

公共交通ガイドのスマートフォン版については、今のところ想定しておりませんが、関連部署とも協議しまして、青梅市全体としてもそういった取り組みが進んでいることもございますので、ガイドについても検討していきたいと思います。

○ 座長

予算など様々な関係があることは理解しておりますけど、今、公共交通の世界は情報化がかなり進んでいて、キーワードで言えば「MaaS」などのモビリティサービスや、情報提供があり、ゆくゆくは支払いがスマートフォンでできるなど、世界でもそういう動きになってきていて、日本でも近い将来そういう動きが来ると思いますので、ぜひ見据えていただければと思います。

○ 委員

まず、この冊子の利用者はどんな人を目標にしているのか中途半端なところがあると思います。先ほどのスマートフォンの検索に関しても、バスの情報がどこまで入っているか確認して、どうやって検索したら良いですよ、というほうが話としては簡単なのかなと。

誰をターゲットにしているのか少しわかりにくいところがあるので、検索の話はきちんとすべきだなというのが1点。なせそう思ったのかというと、P11のバスのご利用案内を見ると、

ほぼバスに乗ったことがない、PASMOとかも知らない人をターゲットにしているイメージがあったのですが、その割にはPASMOのところを読んでいくと、チャージや電子マネーなどの用語は理解しにくいかなと。全般的にどういう人に向けて書いているのかわかりにくいので、全然知らないという人をターゲットにするなら、もう少しわかりやすい表現を検討していただきたいと思います。

関連して、ざっと見て思ったことは、主な場所への行き方についても、ニーズとしてどこがあるのか、これで合っているのか気になっています。公共交通で行きたいところというのは、需要があるとは思いますが市役所というよりも、実際には病院とか買物とかが多いのかなと思うと、必ずしも合っていないのではないかなというのが気になるところです。直接、病院や商業施設の名前を挙げるのは問題があるのかなと思うのですが、バス停名と商業施設が一致しないということもありますし、何か工夫できる範囲でやっていただけると良いのかなと思います。

前回から大きく変えるということですから、率直な感想としては、実際の利用を考えて、これを見たらササッと出かけられるような仕組みになるといいですし、スマートフォンとかで検索しない人を目標とするなら、そういう情報を説明して、工夫していただけると良いと思います。情報の内容としては良いかと思いますが、細かいところや文章等、目的を設定して、差し替えを進めていただきたいと思います。

○ 事務局

ターゲットについてですが、現行のガイドについては、全戸配布を毎年しているというところで、今回、変更を検討した理由としては、いろいろなご意見がある中で、文字が小さいとか系統図が見づらいという声が上がってきており、こういった声を上げていただいている方というのが、公共交通を利用するにあたってスマートフォンではなくてガイドをメインに見ていただいている方、ガイドをよく見ていただいている方からそういう声が上がっているのかなと思っています。

若い方を中心に、スマホでパッと調べられるなか、そういう声を上げている方は、ITベースではなくて紙でじっくり見ている方から声をいただいているかと思いますが、全戸配布はしているのですけれども、まずは、ターゲットとしてはそういう方向けに、文字を大きくして、これをじっくり見ていただけるように、見やすくできればというのがあります。

記載の内容については、レイアウト案という形で一旦見ていただいて、個々の記載内容については、もう少し精査していきます。委員の皆さまには、こういった形でこんな情報を掲載するというイメージとして見ていただければと思っております。先ほどのP5の行き先についても、このまま載せるということではなくて、例えば、冒頭の報告事項にございました観光MMで少し成果がありましたので、観光の部分も挙げて、電車とバスで市内の観光スポット、こんなところに行けるとかといった表記も少し入れても良いのかなと思っております。あとは、日々買物されると思いますので商業施設も、電車とバスを使ってここに行けるといようなことがわかりやすく使いやすい形で掲載できればと思っております。

○ 座長

ターゲットの話は非常に重要だと思います。やはり高齢者の方なのだろうと思いますので、

このガイドをじっくり見て、まめに自分の時刻表を作るというような高齢者の方だと思って聞いておりました。ただ、全戸配布しますので、表紙はもう少し開いてもらえるようなデザインにしてほしいなと思いました。若い人も、面白そうだなと思って開いたら、最近は検索が自宅できて、最寄りのバス停の情報まで探せるようになっていきますから、そういうことを知らない人も結構いるのではないかと思いますので、そういうような情報化が進んでいるということを教えてあげるだけでも使ってみようと思うかもしれないです。それによって、車で行こうか、公共交通で行こうか迷って、バスで行ってこれれば良いかなと思いますので、そういうターゲットと、利用シーンをしっかりと検討いただければと思います。

○ 会長

全戸配布はどんな時期にやっていますか。

○ 事務局

4月に各自治会にお持ちして、配布していただいているという状況です。

○ 会長

自治会を通して、回覧板でまわしていただいているのですけれども、自治会の会員率も落ちてきておりますので、せつかくいいものができるようです。全戸配布の方法を検討していただきたいです。

○ 座長

そのほか、いかがでしょうか。

スケジュールについて伺いたいのですが、いつごろまでに案ができますでしょうか。4月に向けて印刷の準備をしていくことになると思うのですが、それに応じて、皆さまからまた意見をもらう機会があるのかどうか、どんどん思いついたら事務局へ挙げてほしいと思っています。それについてはいつ頃までであれば対応が可能なのでしょうか。

○ 事務局

スケジュールとしては、配布は例年通り4月に行いたいと考えております。そこから逆算して、今年度末には印刷に入りたいところです。今日皆さまに持ち帰っていただいて、じっくり見ていただきながら、お声がありましたら事務局の方にいただいて、それを反映しながら、案として作ったものを各委員様に一旦見ていただき、そちらでよろしければ具体的に固めていきたいというスケジュール感です。

○ 座長

今年度にもう一度会議があるのですか。

○ 事務局

ガイドに対しては書面協議ということになります。原稿案を送らせてもらう形になります。

○ 会長

今までのものと比べると、ボリュームが多くなると思いますので、私の方からも自治会長会議の中でこの話をさせていただきますけれども、また依頼させていただけるとありがたいと思いますので、よろしくお願いします。

○ 座長

皆さまからもいろいろなご意見をいただいて、画期的に変わったもの、多くの人に活用し

てもらえるものになればと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

思いついたらで構いませんので、ぜひ忌憚のないご意見を事務局の方にお寄せいただければと思います。

それでは、すべての協議事項は終了いたします。熱心なご協議ありがとうございました。会長に進行をお返しします。

- 会長
 (総括)

3 閉会